

「障がいがあっても自分で決めたい」 心身障害者福祉団体と厚生常任委員会が懇談会

市内の心身障害者福祉団体と市議会厚生常任委員会の懇談会が5日、市役所でありました。私は総務常任委員ですが、いつも新鮮な要望や意見が出るので、毎回傍聴するようにしています。

今回も、各団体代表から、「知的障害がある人の自己決定・意思表示は難しいと言われているが、自分で決めたいという本人の気持ちがある。本人中心の相談支援体制に取り組んでほしい」「重度心身障害者医療費助成事業（県障）については、再度、県への働きかけと上越市独自の制度の検討を行っていただきたい」「新たな上越地域医療センター病院敷地内に医療的ケアの提供が



可能なグリープホーム」を実現してほしい」「公園内トイレは観光の顔だ。車イスの方も利用できるトイレを増やしてもらいたい」「当市のインクルーシブ教育（障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み）には大事な共生社会の形成という視点が抜けているのでは」などの声が出ていました。

厚生常任委員会メンバーからは、

「知的障害のある人にも自己決定・意思表示をと言われるが、具体的な事例をあげて説明してもらいたい」「市役所では代筆がダメのところもあるというが、（代筆が可能な部署では）そういうところははないと思う。確認が必ずやらないか」「深刻な課題を抱えた世帯で暮らす障害児・者が



【盆栽】。大湯区の作品展で見つけた盆栽。赤い花が作品展に合わせるように咲いています。横に伸びた枝は絶妙なバランスをとっており、見る人を引き付けます。所有者はSさん、細かいお仕事が専門の方です。

「この日の懇談会で出されたものはよく調査して、市議会に取り上げていかなければなりません。」

トキ鉄の皆さんとも意見交換

えちごトキめき鉄道(株)の新社長が着任されたことを受け、6日、市議会の総務常任委員、交通政策調査対策特別委員が会社幹部の皆さんと意見交換会を行いました。

私は他にも会合があって、第1部だけの参加でした。第1部では、新社長・鳥塚亮さんが地域鉄道の役割と今後の取り組みについて、わかりやすく、語りました。

印象に残ったことをいくつか書きとめておきます。

①上越にはご縁を感じる。と言っても、意思がないとつながらない。自分で「こうしたい」「ああしたい」がないと未来はない。

②上越の人たちは鉄道に愛着を持っていると感じている。直

組んでいた。小学5年生が、「ここは鉄道発祥の地だから」と勉強している。子どもたちがそうだということは大人もそう考えているんじゃないかと思っている。鉄道まつり、普通は鉄道会社が主催だ。ここは地元の人たちが主体で、鉄道会社も入っている。毎日の生活の中では車が現実だ。そういうなかで模索している。

③何らかの形で鉄道にかかわっていただくことが重要だ。毎日、鉄道に乗っていただくのが一番だが、他にも使い方があっていいのでは。例えば、農家の人が時計がわりに、電車が走っているのを見る。鉄道を残したいという気持ちには郷土愛がある。何かやりませんかと呼びかけたい。

江津小学校の5年生が鉄道について研究していて、その発表会があるから、いらしてくださいと誘われ、参加してみた。行ったら、まあ、すごかった。グラフがあり、アンケートにも取り



はしづめ法一の 活動レポート

No.1933 2019.11.10
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第五八一回 アキノキリンソウ

毎日のように見ている花であっても、思わぬところで見かけると、うれしくなるものですね。

十一月四日、大島区は竹平の共同墓地で目にしたアキノキリンソウの場合もそうでした。

この日は、午前に従兄の文英さんの一周忌法要を自宅ですませ、参列者全員でマイクロバス、自家用車に分乗して共同墓地へ向かいました。私は専徳寺住職とともに軽乗用車で墓地のすぐ下の駐車場まで行きました。

駐車場よりも少し高い墓地につながる石の階段を登り切ったところで、「おおっ」と思ったのはアキノキリンソウです。小さな黄色い花をたくさん咲かせていました。

最初に目に入ったのは一本だけ。こんなところにも咲いていたのか」としみじみ見ました。次に墓地全体をぐるっと見渡すと、何とあちこちにアキノキリンソウが咲いているじゃありませんか。花は、終わりに近づいているものも一部にありましたが、ほとんどは花盛りでした。

文英さんが亡くなったのはまだ寒い二月の半ばでした。あれから八カ月が経っています。文英さんが心配していた米づくりも無事に収穫作業を終えました。

いまごろ、文英さんはどうしているのだろうと、ふと思ったのは、小鳥たちの鳴き声に導かれるようにして空を見上げたときです。この日はけっこういい天気になりましたが、空には薄い雲がかかっています。でも私が見上げたとき、墓地の真上よりも少し南の位置の雲にぽっかりと穴が開き、しばらくの間、青い空が出たのです。

そばの杉林の木々が上に伸び、その先に青い空がある。この風景を見ながら、私は十数年前の冬のある日のことを思い出していました。この日は足谷の伯母の葬儀か

事で、照源寺住職が「千の風」のことを語ってくれたのです。

ちよつとこのころ、秋川雅史が歌う「千の風」は大流行していました。照源寺住職はお経を読んだ後、亡くなった伯母はいまごろ風になって空を飛んでいるのではないかと静かに語ってくださいました。そのとき、私は足谷の家の廊下に近いところに座っていて、青い空と雲が見えたのです。そのお陰で、私の心の中には青い空とともに「千の風」の話がずっと入っています。

文英さんの一周忌法要のこの日も、墓地上空で雲が動き、青い空が見えたとき、文英さんが空から私たちを見ていてくれる、そんな気がしました。もし、文英さんがしゃべることができれば、「わりのいね。みんなに心配かけちゃって……。きょうはまあ、遠慮なく飲んでいってくれ」そう言ったでしょうね。

お墓の前では、専徳寺住職と照源寺住職がそろってお経をあげてください、その後、参列者全員が線香を上げ、墓に向かって手を合わせました。

文英さんが墓の中から見ていたか、それとも風になって空から見ていたかどうかはわかりません。実際は、何も見えないのかも知れません。でも、文英さんは、大好きな孫たちがそろってお墓の前に来ていて、お参りしてくれたこと、三十代で亡くなった妹の子どもさんたちも来てくれたこと、親戚のものも顔をそろえたことを感じとってくれたと思います。

共同墓地に咲いたアキノキリンソウは自然に増えたのでしょうか。それとも誰かが植えたものなのでしょうか。どうあれ、文英さんの一周忌法要の日に花をいっぱい咲かせて私たちを迎えてくれたのです。「おまんた、よく咲いていてくんたね」と声をかけたくなりました。

市内各地で芸能発表会

先週の土日は市内各地で芸能発表会が行われました。少しの時間でしたが、私は安塚区と吉川区の芸能発表会を見させていただきました。このうち、吉川区では、日本舞踊、オカリナ演奏、よさこい、コーラスを楽しみました。



たのとても良かったです。

高齢化が進む中で、子どもから大人まで参加しているチームとして人気があるのはよさこい踊りのグループ「百華踊乱よしかお」の皆さんです。今回も「よっちょれ」など3曲を踊ってくださいました。

初めて「座禅と写経の講座」へ

公民館主催の「座禅と写経の講座」に参加してきました。

場所は十日町市松代の長命寺です。座禅は10分間、正規の足の組み方は私には出来ませんでした。「はいて、吸う」を意識した呼吸をし、背筋を伸ばすのが精いっぱいでした。座禅をした部屋のふすま絵はススキ、ハギ、キキョウが描かれており、見事でしたね。

イラストは写経の様子です。慣れない筆ペン、緊張しました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月30日(水)	11月6日(水)
上越南消防署	0.043	0.043
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.057
東頸消防署	0.047	0.053
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.043	0.050

春よ来い 第五八一回 アキノキリンソウ

毎日のように見ている花であっても、思わぬところで見かけると、うれしくなるものですね。

十一月四日、大島区は竹平の共同墓地で目にしたアキノキリンソウの場合もそうでした。

この日は、午前に従兄の文英さんの一周忌法要を自宅ですませ、参列者全員でマイクロバス、自家用車に分乗して共同墓地へ向かいました。私は専徳寺住職とともに軽乗用車で墓地のすぐ下の駐車場まで行きました。

駐車場よりも少し高い墓地につながる石の階段を登り切ったところで、「おおっ」と思ったのはアキノキリンソウです。小さな黄色い花をたくさん咲かせていました。

最初に目に入ったのは一本だけ。こんなところにも咲いていたのか」としみじみ見ました。次に墓地全体をぐるっと見渡すと、何とあちこちにアキノキリンソウが咲いているじゃありませんか。花は、終わりに近づいているものも一部にありましたが、ほとんどは花盛りでした。

文英さんが亡くなったのはまだ寒い二月の半ばでした。あれから八カ月が経っています。文英さんが心配していた米づくりも無事に収穫作業を終えました。

いまごろ、文英さんはどうしているのだろうと、ふと思ったのは、小鳥たちの鳴き声に導かれるようにして空を見上げたときです。この日はけっこういい天気になりましたが、空には薄い雲がかかっています。でも私が見上げたとき、墓地の真上よりも少し南の位置の雲にぽっかりと穴が開き、しばらくの間、青い空が出たのです。

そばの杉林の木々が上に伸び、その先に青い空がある。この風景を見ながら、私は十数年前の冬のある日のことを思い出していました。この日は足谷の伯母の葬儀か

事で、照源寺住職が「千の風」のことを語ってくれたのです。

ちょうどそのころ、秋川雅史が歌う「千の風」は大流行していました。照源寺住職はお経を読んだ後、亡くなった伯母はいまごろ風になって空を飛んでいるのではないかと静かに語ってくださいました。そのとき、私は足谷の家の廊下に近いところに座っていて、青い空と雲が見えたのです。そのお陰で、私の心の中には青い空とともに「千の風」の話がずっと入っています。

文英さんの一周忌法要のこの日も、墓地上空で雲が動き、青い空が見えたとき、文英さんが空から私たちを見ていてくれる、そんな気がしました。もし、文英さんがしゃべることができるならば、「わりのね。みんなに心配かけちゃって……。きょうはまあ、遠慮なく飲んでいってくれ」そう言ったでしょうね。

お墓の前では、専徳寺住職と照源寺住職がそろってお経をあげてください、その後、参列者全員が線香を上げ、墓に向かって手を合わせました。

文英さんが墓の中から見ていたか、それとも風になって空から見ていたかどうかはわかりません。実際は、何も見えないのかも知れませんが、でも、文英さんは、大好きな孫たちがそろってお墓の前に来ていて、お参りしてくれたこと、三十代で亡くなった妹の子どもさんたちも来てくれたこと、親戚のものも顔をそろえたことを感じとってくれたと思います。

共同墓地に咲いたアキノキリンソウは自然に増えたのでしょうか。それとも誰かが植えたものなのでしょうか。どうあれ、文英さんの一周忌法要の日に花をいっぱい咲かせて私たちを迎えてくれたのです。「おまんた、よく咲いていくんだね」と声をかけたくなりました。

市内各地で芸能発表会



先週の土日は市内各地で芸能発表会が行われました。少しの時間でしたが、私は安塚区と吉川区の芸能発表会を見させていただきました。

このうち、吉川区では、日本舞踊、オカリナ演奏、よさこい、コーラスを楽しみました。とても良かったです。

高齢化が進む中で、子どもから大人まで参加しているチームとして人気があるのはよさこい踊りのグループ「百華踊乱よしかお」の皆さんです。今回も「よっちょれ」などの曲を踊ってくださいました。

写真は安塚区コミプラで。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月30日(水)	11月6日(水)
上越南消防署	0.043	0.043
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.057
東頸消防署	0.047	0.053
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.043	0.050

初めて「座禅と写経の講座」へ

大島区公民館主催の「座禅と写経の講座」に参加してきました。

場所は十日町市松代の長命寺です。座禅は10分間、正規の足の組

み方は私には出来ませんでした。「はいて、吸う」を意識した呼吸をし、背筋を伸ばすのが精いっぱいでした。座禅をした部屋のふすま絵はススキ、ハギ、キキョウが描かれており、見事でしたね。